

# 「久慈市縫製企業ものづくり高度化研修会」

## 【事業目的】

縫製企業が集積する本市(市内製造従業員数に占める縫製企業従事者の割合が21.8%(全国2.3%、岩手県5.2%)では、産業開発担当部署を中心に平成17年度から縫製企業の利益率向上及び海外縫製企業との競争力の向上を目的に、縫製技術の指導や情報収集のための研修会等を行ってきており、地域では、次のステップとして、今後、従来の労働集約型産業から技術や知識などを付加した知的労働の集約産業(知的集約型産業)へシフトしていくことなど、既存の生産改善に加えて高付加価値型ものづくりへの転換を目的とした抜本的な経営方針の転換が必要だとの認識に至っている。そこで、今意識が変化しつつあるやる気ある経営者を中心に、高付加価値型商品生産に向けた経営システムの改善を目指した「久慈縫製企業ものづくり高度化研修会事業」を開催する。

## 【事業実施状況、成果】

●平成22年10月22日(金)14:00～18:00「久慈市縫製企業ものづくり高度化研修会」

・講演 日本モデリスト協会 会長 稲荷田 征

『アパレル生産は時代と共に変わる～ここから始めよう～』

本講演では、主に現在のアパレルと縫製業の關係に着目して、新たな關係を構築することによる、WIN-WIN帰結を主眼に、その思いを開陳された。

・講演 株式会社アパレル工業新聞社 主幹 本多 徹

『縫製業界のおかれている現状と今後～メイド・イン・ジャパンへの道～』

本講演では、世界から見た日本の立ち位置や、世界の縫製業の現状を踏まえ、これまで培った技術の活用方法について示唆をいただいた。



・意見交換会(市内縫製業者数社)

(まとめ)現在のままでは、立ちいかなくなっていくと思われる。今回「高付加価値化」「新機軸」「異業種との連携」「技術移転のマザー工場」など、1社1社の強みが明らかになった。この上でいかなる展開が出来るかを今後、模索し続けなければならない。今回の事業がキックオフとなり、継続した行政の支援により縫製業のより一層の進行を図るべきである。

## 【今後予想される事業効果】

本事業の実施により、課題とされてきた高付加価値化製品づくりに関する方向性が一定程度示された。

これまでの経営基盤から脱却すべく、いち早く事業の新機軸を模索する動きがみられたほか、生産の海外移転に対して、あえて人材育成による高付加価値化で対抗すべく動き出した企業もあった。こういった動きは従来も見られたが、今回は現状把握(計測)から企画(デザイン)などと、戦略的な背景に基づく事業展開となっており、事業の成功する可能性も一段と高くなってきているものと考えられる。

意見交換会では「厳しいけれども頑張る」から「厳しいけれども企業間連携により難局を乗り切る」という考え方にシフトし、「本業」の底上げにも大きく寄与したものと認められる。

今後も縫製業支援事業を継続し、地域の基幹産業として永続的に発展していけるよう意を注いでまいりたい。